ボーリング柱状図

調　査　名　阿真地内地質調査

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.　1

ボーリング名	B-1	調査位置	座間味村字阿真地内			北緯	° ′ ″
発注機関	座間味村役場			調査期間	平成30年 3月10日～平成30年 3月12日	東経	° ′ ″
調査業者名	(株)粟国ボーリング 電　話 098-879-8151	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	粟国　英樹	ボーリング責任者	知念　兼弘
孔口標高	KBM 0.19m	角度	180 上 90 下 0	方向	北 0 東 90 南 180 西 270	地盤勾配	水平 0 鉛直 90	使用機種	試錐機	YBM-05D	ハンマー落下用具	半自動型
総掘進長	20.45m								エンジン	NFAD　8-K	ポンプ	クボタ　SD315

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
	-0.31	0.50	0.50		埋土（礫混じり砂）	黒褐			埋土層 少量のφ2～40mm程度のサンゴ破砕礫や貝殻片を点在する。 砂は中～粗砂を主体とする。		
1											
2					礫混じり砂	乳褐			海浜砂層 φ2～40mm程度のサンゴ破砕礫や貝殻片を混入する。 砂は中～粗砂である。 GL-2.30m付近で有水を確認する。		3/10 2.30
3											
4	-3.81	3.50	4.00								
5					シルト混じり砂礫	淡灰			沖積砂礫層 全体的にシルトを混入する。 砂は細～粗砂で、礫はφ2～40mm程度である。 GL-8.15～8.40mでサンゴ塊を挟在する。		
6											
7											
8	-8.41	4.60	8.60								
9					礫混じりシルト質砂	灰			沖積砂層 所々でφ2～40mm程度のサンゴ破砕礫、枝サンゴ片及び貝殻片を混入する。 全体的にシルトを含有する。 砂は細～粗砂である。		
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20	-20.26	11.85	20.45								
21											
22											
23											
24											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
0.65	2	2	2	6/30	6
1.15	2	2	2	6/30	6
1.65	2	2	2	6/30	6
2.15	1	2	2	5/30	5
2.45					
3.15	4	3	4	11/30	11
3.45					
4.15	2	2	2	6/30	6
4.45					
5.15	2	1	2	5/30	5
5.45					
6.15	1/15		1/15	2/30	2
6.45					
7.15	1/15		1/15	2/30	2
7.45					
8.15	30	30		60/20	90
8.35					
9.15			1/30	1/30	1
9.45					
10.15			1/30	1/30	1
10.45					
11.15	1/15		1/15	2/30	2
11.45					
12.15	1/15		1/15	2/30	2
12.45					
13.15	1/15		1/15	2/30	2
13.45					
14.15	1/15		1/15	2/30	2
14.45					
15.15	1/15		1/15	2/30	2
15.45					
16.15	1/15		1/15	2/30	2
16.45					
17.15	1	1	1	3/30	3
17.45					
18.15	2	1	1	4/30	4
18.45					
19.15	1/15		1/15	2/30	2
19.45					
20.15	1/15		1/15	2/30	2
20.45					

原位置試験

深度 m	試験名及び結果

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験
3.15	B-1-1	㊀	粒度
3.45			
6.15	B-1-2	㊀	粒度
6.45			
10.15	B-1-3	㊀	粒度
10.45			

掘進月日：3/10、3/11、3/12